

### 30【P1】Ⅱ-199

生薬エキス配合育毛剤の研究-生薬エキスの組合せに関する検討について-

○田中 実希<sup>1</sup>, 山口 琢児<sup>1</sup>, 松浦 大輔<sup>1</sup>, 川上 善治<sup>1</sup>, 森田 益史<sup>2</sup>, 鈴木 茂<sup>2</sup>, 竹田 秀一<sup>1</sup>, 雨谷 栄<sup>2</sup>, 油田 正樹<sup>1</sup>, 渡辺 晋一<sup>4</sup>, 荒瀬 誠治<sup>3</sup>(<sup>1</sup>株式会社ツムラ医薬評価研,<sup>2</sup>株式会社ツムラ生薬・資源研,<sup>3</sup>徳島大医,<sup>4</sup>帝京大医)

【目的】毛髪の成長は、成長期（初期・後期）・退行期・休止期からなるヘアサイクルを持つ。初期成長期における成長促進作用（育毛作用）と血流促進作用の間には密接な関係があるといわれている。今回、生薬エキスにおける皮膚血流促進作用と育毛作用の関連性について研究した。また、成長期誘導作用（発毛作用）をもつ生薬の探索を行った。さらに、これら3つの作用を高める事が可能な生薬エキスの組み合わせについて検討を行ったので報告する。

【方法・結果】SD ラットにおいて、レーザードップラー皮膚血流計を用いて皮膚血流促進作用について検討した。その結果、生姜チンキが有意に皮膚血流促進作用を示した。C3H マウスを用いた育毛試験においても、生姜チンキには育毛作用が認められた。これらから、生姜チンキが成長期初期の毛成長に重要な働きをすること、皮膚血流促進作用と育毛作用の間には密接な関係があることが示された。次に、ヒトの毛髪関連細胞を用いたスクリーニングにおいて効果がみられた生薬について、C3H マウスを用いた成長期誘導作用の確認を行い、牡丹皮エキスが成長期誘導作用を持つことを明らかにした。

さらに、生姜チンキと牡丹皮エキスおよびその他の生薬エキスの組み合わせについて検討し、各々の単独よりも顕著に皮膚血流促進作用・育毛作用・成長期誘導作用が高まる組み合わせを見出した。

現在、詳細な作用機序を解析中であり、本会にて報告する。